

『憧れの背中』

「痛い！痛くて腕が上がらない。」私が初めて背中に痛みを感じたのは高校三年生の冬、大学入試が始まる二ヶ月前のことでした。大きく身体を動かすことはもちろん、座って勉強をするのにも痛みが伴い、悩んだ末に病院に行くことにしました。それが私の初めてのペインクリニックへの受診であり、先生との出会いです。

診察では他の病院と同様に症状を聞かれるのですが、これまでに感じたことのない痛みだったこともあり、痛みをどのように伝えたらよいか分からず、うまく症状を伝えられないもどかしさを感じました。それに加えて急に生じた背中の痛みへの恐怖、痛みによって思うように勉強ができないことへの焦りや不安などさまざまな感情によって泣いてしまった私に、先生は「大丈夫だよ。」ととても優しく声をかけてくださり、時間をかけてゆっくり話を聞いてくださいました。また私がまだ高校生であること、受験勉強や学校があるため眠気の副作用を避けたいことなどさまざまなことを考慮したうえで薬を決め、薬についてもとても丁寧にわかりやすく説明してくださいました。初めての痛み、初めての受診で不安でいっぱいだった気持ちが軽くなったのを覚えていきます。それ以降も定期的に受診をしていましたが、いつも「勉強の調子はどう？」と気にかけてくださったり、診察室に入った時の私の表情や

診察中の些細な仕草からその日の調子や背中への痛みに気が付いてくださいました。どれだけ不安が大きくても気持ちが沈んでいても、診察室で顔を見ると元氣がもらえる、とても頼れる存在となっていました。そして無事に志望していた大学への合格を報告した時には「こんなにつらい中、本当によく頑張ったね。頑張っているのを見ていたから本当に嬉しい。」と言ってくださり、先生に大学合格の報告が出来たことをとても嬉しく思いました。

私はいま、看護師になるために大学に通っています。県外の大学に進学したため先生の外来へは行けなくなりましたが、先生に出会った時から私の目標は先生です。先生のように患者さんひとりひとりをよく観察し、患者さんの困りごとに優しさと思いやり、そして医療の専門知識を持って寄り添える医療者になりたいです。先生の言うてくださった「大変な思いをした分、患者さんのつらさに寄り添えるとても素敵な看護師になれると思う。」という言葉を信じて、患者さんと真剣に向き合い、患者さんとともに歩んでいけるような看護師を目指しています。

「無事に看護師になったよー」と報告する日を楽しみにしててください。ありがとうございます、待っていてね、先生。